

皮膚科科卒後臨床研修プログラム

I. 研修プログラムの目的及び特徴

皮膚科科は卒後研修の必須科目ではないが皮膚は構造、機能からみると特異な性格を有し、身体の内外的からの影響を受けて鋭敏に反応して様々な病変を呈する。従って、日常診療における皮膚の観察は、その手技の簡便さに比して得られる情報は多い。当科での研修においては、皮疹の的確な表現法を始めとする皮膚科的診断法および治療法の基本的技術を習得し、皮膚科関連領域に関する広い視野を体得することを目的とする。

II. 研修プログラム責任者

プログラム総括責任者：中村康博(皮膚科医師)

III. 研修指導医

研修担当責任者：中村 康博

指導医：中村 康博

IV. 研修プログラムの管理運営

研修期間中は指導医によって教育、評価が行われる。

V. 募集定員 2名

VI. 教育課程

1. 研修開始年度:平成 25 年 4 月 1 日

2. 期間割と研修医配置予定

済生会習志野病院皮膚科で研修を行う。2 ヶ月以上の研修が望ましい。さらに 3-7 ヶ月の研修を選択することも可能である。

3. 一般目標

皮膚科疾患を通して患者の全身状態を把握するとともに、その検査法・治療法を理解する。疾患の対処法も合わせて習得する。

4. 行動目標

- (1) 外来診察の問診を行なうことができる。
- (2) 必要な検査を選択することができる。
- (3) 異常所見を具体的に述べるることができる。

- (4) 診察所見を総合して、正しい診断にいたることができる。
- (5) 治療計画を具体的に述べることができる。
- (6) 患者さんや家族の心情に配慮することができる。
- (7) 守秘義務を理解し、これに即した行動がとれる。
- (8) 治療計画を具体的に述べることができる。
- (9) 治療の手順を理解し、準備をすることができる。
- (10) 注射、採血、小手術を行なうことができる
- (11) スタッフと良好なコミュニケーションを図ることができる。
- (12) 保健診療体制を理解し、これに即した診療ができる。
- (13) 院内感染を理解し、清潔な行為を行なうことができる。
- (14) 社会人としての節度ある服装や、行動をとることができる。

5. 経験すべき診察法・検査・手技

(1) 研修すべき基本的な診察法

- 1) 発疹を詳細に観察し、適切な表現、用語で記載できる。
- 2) 発疹に伴う全身状態の変化(バイタルサインの変化、二次的な皮膚の変化)を診察し、記載できる。
- 3) 粘膜(口腔、外陰部)、爪、毛髪の見所を診察し、記載できる。
- 4) 表在リンパ節の診察ができ、記載できる。
- 5) 全身にわたる身体診察を系統的に実施できる。

(2) 検査を指示し、結果を解釈できる基本的な臨床検査

- 1) 一般検尿
- 2) 血算、白血球分画
- 3) 血液型判定、交差適合試験
- 4) 心電図(12誘導)
- 5) 動脈血ガス分析
- 6) 血液生化学的検査
- 7) 血液免疫学的検査
- 8) アレルギー検査、皮膚テスト、内服誘発テスト
- 9) 細菌学的検査、薬剤性感受性検査
- 10) 真菌学的検査
- 11) 細胞診、病理組織検査
- 12) 皮膚科画像診断(単純 X 線、CT、MRI)

(3) 基本的手技

- 1) 注射法(皮内、皮下、筋肉、点滴、静脈確保)を実施できる。
- 2) 採血法(静脈血、動脈血)を実施できる
- 3) 導尿法を実施できる
- 4) 軽度の外傷、熱傷の処置を実施できる
- 5) 圧迫止血法を実施できる
- 6) 包帯法を実施できる
- 7) 局所麻酔法を実施できる
- 8) 簡単な切開、排膿を実施できる
- 9) 皮膚縫合法を実施できる
(状況に応じて真皮縫合を実施できる)
- 10) 創部消毒とガーゼ交換を実施できる
- 11) ドレーン、チューブ類の管理ができる

(4) 基本的治療法

- 1) 療養指導ができる
- 2) 外用治療(軟膏治療)を実施でき、かつセルフケアの指導ができる
- 3) 薬物の作用、副作用、相互作用について理解し、薬物治療ができる。
- 4) 輸液ができる
- 5) 基本的な皮膚外科的な治療ができる(冷凍療法、褥創のケア、良性腫瘍の切除など)

(5) 医療記録

- 1) 診療録(退院時サマリーを含む)に従って記載し管理できる
- 2) 処方箋、指示箋を作成し管理できる
- 3) 診断書、死亡診断書(死体検案書を含む)、その他の証明書を作成し管理できる
- 4) 紹介状と、紹介状への返信を作成でき、それを管理できる

6. 経験すべき症状・病態・疾患

(1) 症状

- 1) 浮腫
- 2) リンパ節腫脹
- 3) 発疹

- 4) 発熱
- 5) 咳、痰
- 6) 嘔気、嘔吐
- 7) 腹痛
- 8) 便通異常(下痢、便秘)
- 9) 関節痛
- 10) 痒み
- (2) 緊急を要する症状・病態
 - 1) ショック
 - 2) 急性感染症
 - 3) 外傷
 - 4) 熱傷
- (3) 経験が求められる疾患、病態
 - 1) 皮膚系疾患
 湿疹、皮膚炎群、蕁麻疹、紅班症、紫斑、循環障害、膠原病と類症、肉芽腫、
 物理学的皮膚障害、薬疹、水疱症、膿疱症、炎症性角化症、代謝異常、
 皮膚腫瘍、皮膚感染症、動物性皮膚疾患
 - 2) 血液、造血期、リンパ網内系疾患
 貧血、皮膚の悪性リンパ腫、出血傾向、紫斑病
 - 3) 循環器系疾患
 動脈疾患、静脈、リンパ系疾患
 - 4) 内分泌、栄養、代謝系疾患
 糖代謝異常
 - 5) 加齢と老化
 老年症候群(褥創)

VII. 週間スケジュール

	AM	PM
月	外来	手術
火	外来	外来
水	外来	外来、

		院内回診
木	外来	外来
金	外来	外来

VIII. 評価方法

1. 研修医は、研修終了日に研修内容についての発表をおこなう。
2. 指導医により、各到達度目標に対する評価、総合評価が行われる。
3. 研修医は、各到達度目標に対する自己評価表を提出する。